



ニューヨーク市中心部、ウォール街の標識

設立100周年を迎えた 米国の中央銀行

米国の中央銀行（「連邦準備制度」）は、ワシントンD.C.にある連邦準備制度理事会（FRB）とニューヨーク連邦準備銀行など12の地区連銀で構成されており、昨年（2013年）末に100周年を迎えました。世界の金融の中心地として知られるニューヨーク市ウォール街にあるアメリカ金融博物館では、連邦準備制度設立100周年記念展を本年（2014年）10月1日まで開催しています。

意外に歴史が浅いと思われるかも知れませんが、実は、連邦準備制度は米国初の中央銀行ではありません。1791年と1816年の二度にわたり、中央銀行が設立されましたが、連邦政府の権限範囲を巡る党派対立（「連邦派」対「反連邦派」）もあって、いずれも短命に終わりました。

1907年、中央銀行不在のもとで生じた金融危機は、ウォール街の銀行家の尽力で収束したものの、経済に深い傷跡を残しました。この危機をきっかけに、金融システムの安定を担う中央銀行の必要性が改めて認識され、連邦準備制度が設立されました。「大きな政府」に懐疑的な世論もあり、その設立は難産でした。世間の目は^{はばか}、設立に向けた会議は銀行家所有の島で^{ひみつり}秘密裏に開催されたという逸話^{いつわ}が残っています。

その後の金融危機では、ウォール街周辺に居を構えるニューヨーク連銀をはじめ連邦準備制度がその解決に重要な役割を果たしてきました。ニューヨークを訪れた際は、このような歴史を頭の片隅に置いてウォール街を散策してみてもいかがでしょうか。

近年、リーマン危機の発生を踏まえ、主に大規模金融機関を対象とした多くの厳格な規制が制定されてきており、今後も金融市場や金融機関の経営戦略への影響が予想されます。ニューヨークの金融市場の動向や、連邦準備制度とその誕生に関わったウォール街との関係の^{きすう}帰趨について、当事務所は情報収集に努めています。

（日本銀行ニューヨーク事務所）

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



連邦準備制度設立100周年記念展を開催中のアメリカ金融博物館



ウォール街周辺に居を構えるニューヨーク連銀